KURASHIKI CENTRAL HOSPITAL

K NEWS No.28 2016.7

Close-up

平成28年熊本地震
倉中DMATが出動しました

この冊子は、倉敷中央病院をご理解いただくとともに、皆さま方とのコミュニケーションをはかるためのものです。皆さまと当院を結ぶかけはしとなるように、「Kニュース」と名付けました。

倉敷中央病院 ■患者本位の医療・全人医療・高度先進医療■

DMAT
ー災害派遣医療チームー

DMATは大地震や列車事故などの災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行う専門的な訓練を受けた医療チームです。災害派遣医療チーム「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字をとった略称で、医師、看護師、業務調整員（医療職及び事務職員）で構成されています。

1995年の阪神・淡路大震災では病院も被災し、ライフラインの途絶、医療従事者の確保の困難などにより十分な医療を受けられずに亡くなった、いわゆる「避けられた災害死」が500人いたと想定されるなど、災害医療に関する多くの課題が浮き彫りとなりました。2005年に厚生労働省が、大規模災害時に全国から派遣されて活動を行う日本DMATを発足させました。域内災害時に医療活動を行う都道府県DMATもあります。

災害現場ではDMATのほか、さまざまなチームが医療活動を行っています。JMATは日本医師会災害医療チーム「Japan Medical Association Team」の頭文字をとった略称で、被災地での避難所・救護所における医療や、被災病院・診療所への医療支援を行います。2011年３月の東日本大震災前から創設に向けた準備が進められていた医療チームです。DMATの活動を引き継ぐ長期的な派遣とされており、１チーム当たりの派遣期間は３日～１週間を目処としています。

Kニュース
NO.28　2016.7

CONTENTS

DMATとは　3

クローズアップ
平成28年熊本地震
倉中DMATが出動しました　4

インタビュー
循環器内科
主任部長　門田　一繁
心不全のはなし　8

トピックス
わが街健康プロジェクト。
ーかかりつけ医について
サポーターと意見交換　12

インフォメーション1
「がん」の相談窓口を
ご存知ですか？　14

インフォメーション2
医療被ばく低減への
取り組み　16

QQ車
思い切り笑ってみませんか？
「くらちゅう寄席」が好評です　18

院内学級に学習用タブレット端末が
寄贈されました

平成28年熊本地震
倉中DMATが出動しました

このたびの熊本地震により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

倉敷中央病院は地震発生後の4月16日から4月23日の8日間にわたり、DMATチームを計2チーム派遣しました。「被災地の役に立ちたい」という気持ちで活動したDMAT隊員計8人が、被災地での活動内容や思いなどを振り返りました。

〈救急科〉家永医師
〈看護部〉岡部看護師
〈施設・環境部〉佐々木事務員
〈薬剤部〉益本薬剤師

〈臨床工学部〉連仏臨床工学技師
〈救急科〉越後谷医師
〈看護部〉田畑看護師
〈看護部〉渋江看護師

被災地の状況はどうでしたか。

家永医師　現地の方々と話すことで、ライフラインが途絶している、次の余震で自宅が倒壊するかもしれない、家に帰れないといった問題を抱えている人が多いことが分かりました。日常生活を送ることができず、いつまで続くのか分からない不安を抱えていました。

岡部看護師　避難所で疲れてしまっている慢性疾患の患者さんが多くおられ、家族の介護も限界になっている状況でした。

佐々木事務員　電気や水道などのライフライン途絶に伴い、通常の生活が全くできないことによる不便さを、直接被災者からお話を聞いたことで、さらに地震の恐ろしさを感じました。

益本薬剤師　被災者の方々は、水が使えない状況に苦労されていました。

渋江看護師　私たちが支援に入った阿蘇医療センターは、ライフラインも復旧し、普通診療も開始されていました。

連仏臨床工学技師　ただ、倒壊した家屋が多く二次災害の危険もあり、慎重な行動が必要でしたね。

田畑看護師　食事は炭水化物中心の配給だったため、高カロリー、塩分量で持病のある方、小さな子どもは問題になってくると感じました。実際に現地の生活環境で食事をしましたが、やはり温かい食事は身体だけでなく心も温まる思いがしました。

倉敷中央病院の熊本地震への対応

熊本地震への対応として、DMAT派遣、義援金の募金活動等を行いました。

日付	項目	概要
4月15日	物資提供	済生会熊本病院に当院の備蓄物資を送付（640個）※同日午後10時に物資到着
4月16日～19日	DMAT第1次隊	**参集場所：熊本赤十字病院** 転院搬送への備え、病院支援、ER業務を担当（16日午前10時出発、19日午後4時帰着）
4月16日	物資提供	食料を済生会熊本病院に発送（白米2,000パック、カップめん4,000個、缶詰4,000個） ※約125万円相当
4月20日～5月11日	募金活動	募金総額　17,581,630円を日本赤十字社に拠出（院内募金 118,517円、病院職員3,672,298円、院友会　5,000,000円、病院8,790,815円）
4月20日～23日	DMAT第4次隊	**参集場所：阿蘇医療センター** 転院搬送への備え、地域の救護所スクリーニング、同救護所での午後6時～午後9時の夜間診療（20日午前8時出発、23日午後3時30分帰着）

活動内容を教えてください。

家永医師　被災した病院からの患者避難、避難所の状況の確認・評価、救護所の設置などが求められました。活動3日目は熊本赤十字病院の救命救急機能が回復し、その支援をしました。患者の9割以上が避難所からで、半数は入院が必要な状態でした。ストレスや脱水で、症状が悪化している方もいました。

渋江看護師　私たちは周辺の避難所での、昼・夜間診療や患者搬送のための準備が中心でした。

佐々木事務員　DMATは医療活動だけという考えを持たず、支援先の病院で困っていると目に留まれば、物品の移動でも片付けでも、何でもやるという気持ちで、積極的に支援活動を行いました。

家永医師　すべての活動後、使わなかった物資を避難所に届けましたが、一人診療依頼があり、教室の中で診察を行いました。幸い医療的な問題はありませんでしたが、硬い床の上に薄い毛布1枚のみが個人の占有スペースという状況でした。ちょうど水が出るようになった時で、トイレの問題や手洗いによる感染の問題は少し改善したようでした。トイレットペーパーがなかったため喜ばれました。

私たちが日頃、気をつけておくべきことなどはありますか

佐々木事務員　岡山県が被災した場合に、当院の患者さんの受入体制や地域の医療機関からの支援受入体制の整備が課題と感じました。患者さんが一挙に搬送されたり、ウォークインで来院されたりする状況を想定したマニュアルの整備と、そのマニュアルに沿った訓練の必要性を再認識しました。

渋江看護師　何かしたいという気持ちが大きすぎて、無力感を感じました。慢性期の支援の準備が十分ではなかったので、本当に必要な支援ができたかという点で、反省点が残りました。

　DMAT隊は存在するだけで目立つので、現地での行動や言動には十分に注意が必要だとあらためて感じました。

田畑看護師　どうすることがベストなのか、まずは現地の変わり行く需要を把握していくことが大切だと感じました。帰る家があり、そこに家族があること、仕事があること、日常を送れることはとてもありがたいことだと思いました。

家永医師　災害出動をしても、見える部分はごく一部であり、災害の全体像を把握することは不可能だと感じました。さまざまな問題に最善を尽くしていますが、問題は山積みで、効率的で効果的な被災地の支援が求められています。災害を疑似体験する訓練で、日頃から準備をすることが大切です。

岡部看護師　活動を終えて戻った隊員の心のケアも必要ですね。

家永医師　被災された方はもちろんですが、援助する側もストレスを受けています。自分だけは大丈夫と過信せず、周りの方とコミュニケーションを取って相談していくことが大切です。

災害拠点病院とは

地震や台風等の災害時に24時間体制で被災地からの重症傷病患者さんらを受け入れる医療機関。1995年の阪神・淡路大震災で浮き彫りとなった災害医療体制の不備を整備するため、国は各都道府県知事に対し、災害時に拠点となる災害拠点病院を選定・設置するように通達しました。

DMATチームや病院敷地内など近接地にヘリポートを確保、建物が耐震耐火構造で、広域搬送への対応機能などを有することなどが条件となっています。これらの機能を有する施設が「地域災害拠点病院」、さらに機能が強化され、医療救護要員の訓練・研修機能を有する施設が「基幹災害拠点病院」として選定されます。当院は1997年に岡山県災害拠点病院に指定されました。非常事態に備えて定期的に訓練を行っています。災害拠点病院は6月末時点で岡山県内に10施設、全国で約700施設が指定されています。

心不全のはなし

循環器内科
主任部長　門田　一繁

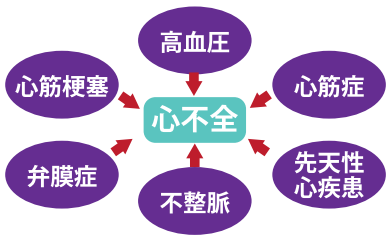
心不全とはどのような症状なのですか？

門田　心臓は全身に血液を送り出すポンプの役目をしています。その役割を果たせない状態を心不全といいます。高血圧や心筋梗塞、不整脈、弁膜症などが原因となって、心不全になります。

　全身に必要な血液を送り出せなくなり、血液が肺や身体に溜まることで、▽疲れやすくなる▽動悸がする▽すぐに息切れがする▽血圧が低い▽足や顔などにむくみが出る▽夜息苦しくて目が覚め、座ると呼吸が楽になる、という症状が現れます。

心不全の治療目標は何ですか？

門田　心不全は大きく2つに分類されます。心臓の血管が詰まって血液が流れなくなり心筋が死んでしまう心筋梗塞など、状態が急激に悪化する場合を「急性心不全」、高血圧や弁膜症など慢性的に心不全症状がある場合を「慢性心不全」といいます。急性心不全では入院治療が必要で、目標は速やかに症状を改善させることと、命を救うことになります。慢性心不全は心不全の悪化による入院を減らすことや、日常生活での自覚症状を改善させることが目標になります。



予防するために気をつけることは？

門田　基礎疾患として、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患や高血圧、糖尿病を軽症のうちから治療することが大切です。生活習慣では、塩分制限に気をつける▽動物性脂肪やコレステロールの過剰摂取をひかえる▽禁煙する▽毎日体重を測定してむくみなどに注意する▽適度な運動▽ストレスを避けて規則正しい生活を送ることなどが挙げられます。

心不全になった場合の具体的な治療内容を教えてください。

門田　狭心症や心筋梗塞などは、狭くなった冠動脈をカテーテルで拡げたり、冠動脈バイパス手術で心臓への血流を改善させたりします。心臓の弁膜に狭窄や逆流が見られる際にも手術を行うことがあります。不整脈の治療では、ペースメーカーや植え込み型除細動器の埋め込み、カテーテルでの治療（カテーテルアブレーション）などがあります。

　内服加療ではレニン・アンジオテンシン・アルドステロン（RA）系抑制薬やβ（ベータ）遮断薬などを用いて慢性心不全の状態を改善させます。体内の余分な水分を取り除くため利尿剤も用います。また、血栓の予防目的で抗凝固薬や抗血小板薬を服薬することもありますので、医師や薬剤師の指示に従うようにしてください。

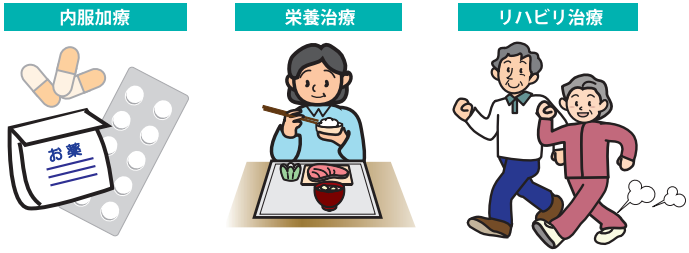
心不全では繰り返し入院となる患者さんがいると聞きます。再発を防ぐための注意点は何ですか？

門田　心不全の悪化による入院を繰り返すたびに身体活動は低下します。快適な社会生活や家庭生活に戻り、再発を予防するため、患者さん自身が運動療法・食事療法・薬物療法・心理療法など、心臓リハビリテーションと呼ばれる包括的な生活習慣改善に取り組む必要があります。

運動療法や食事療法は何をすれば良いでしょうか？

門田　食物にはさまざまな栄養素が含まれていますが、同時に全ての栄養素を満たしているものではありません。毎日の食事では主

具体的な治療法



食・主菜・副菜をそろえて、いろいろな食品を食べることで必要な栄養素を満たしましょう。塩分をとりすぎると体内に水分を溜めやすくなり、心臓にも負担がかかります。塩分は1日6g未満が目標です。

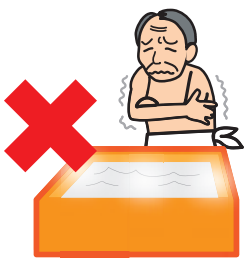
運動は量が多くても少なくても支障があります。専門病院で運動量を確認しておくことが大切です。一般的には歩行や自転車こぎ、体操など全身有酸素運動が推奨されており、内容は1回30分程度、もしくは30分を2～3回に分けても同様の効果が期待できます。週3回以上は行いましょう。体調がすぐれない場合や胸の痛み・圧迫感を感じたときなどは、すぐに運動を中止して安静にしてください。

心理的な問題も影響するのですね。

門田　心と体は互いに関連しており、切り離して考えることはできません。心不全の治療が順調でも、仕事や日常生活上のストレスが蓄積して心のバランスが崩れると、薬の内服や食事の管理がおろそかになってしまいます。身近な人や医療スタッフへの相談、場合によっては、かかりつけ医と相談して専門家へ相談しましょう。

ほかにも気をつけることはありますか？

門田　急激な温度差は全身の血管を収縮・弛緩させ、血圧の上昇や下降、体温上昇など心臓に負担がかかります。入浴時は脱衣所や浴室を暖かくしましょう。熱いお湯も心臓に負担がかかり血圧が上がりますので、目安は40～41℃、肩までつからず、時間は10分以内としましょう。



アルコールは少量ならば血管を拡張させ、血液の流れを良くし、精神安定の作用もあります。ただ、多量の場合は摂取カロリーが増加して肥満の原因となります。医師より禁酒の指示があれば、禁酒しましょう。

タバコは血管を収縮させるとともに必要以上に心臓の負担となる作用があるため、必ず禁煙してください。

日常生活や仕事への復帰、妊娠のことなど気になることがあれば、かかりつけの医師や看護師に相談してください。

症状が安定するまでは、倉敷中央病院で診察することになりますか？

門田　質の高い医療を行うことを目的に、厚生労働省は医療機関の役割分担を進めています。それぞれの医療機関が特徴に応じた機能を生かして、近隣の医療機関と連携・協力しあって患者さんの医療にあたっています。

当院のような急性期病院での専門的治療が終わり、病状も安定された患者さんは、かかりつけ医へ紹介となります。その後、病状が不安定になることがあれば、再び急性期での治療を受けることになります。

病院・診療所が代わることで、症状の情報が途切れないか心配です。

門田　患者さんがかかりつけ医の診察を受ける際には、当院の主治医が診療情報提供書を作成し、患者さんの状態をお伝えすることができます。また、このたび当院や地域の医療機関で構成している「倉敷地域心不全の会」を中心に、「地域の心不全手帳」を作成しました。

心不全手帳とは何ですか？

門田　心不全の症状や治療内容、日常生活での注意点などを記載しています。患者さんが体重や血圧、服薬状況などを日々記録できるページも設けていますので、ご自身の体調も把握することができます。

心不全患者さんの健康寿命を長くするためには、医師や看護師だけではなく、さまざまな職種の医療従事者がかかわり、多くの医療機関が役割分担をしていく必要があります。日常生活で活用していただき、それぞれの医療機関を受診する際には携帯していただければと思っています。

早瀬先生　渡邉先生

岡本看護師　今井先生

わが街健康プロジェクト。
―かかりつけ医についてサポーターと意見交換

「医療機関と上手に付き合う」「病気の予防と健康維持」をテーマに開催している「わが街健康プロジェクト。」（わがプロ）の第4回サポーターズミーティング（SMTG）が4月19日、倉敷市民会館で開かれました。SMTGは講演会に3回参加して地域医療を「学ぶ」ステップを達成したブロンズとゴールドサポーターが参加の対象です。今回は「かかりつけ医」について、参加したサポーター42人と事務局のスタッフ20人が5～6人の小グループに分かれて意見交換をしました。

事務局スタッフの倉敷リハビリテーション病院・岡本典子看護師と、イマイクリニックの今井博之 院長先生が、かかりつけ医の役割や付き合い方についてお話いただきました。

意見交換では、かかりつけ医と良好な関係ができている方の話を聞いて「うらやましい」「なかなか出会うのが難しい」という声もありました。代表として最後に発表いただいたサポーターからは「次の世代のことを考えなければいけない。大きな病院に行くと検査も多く医療費がかかるので、かかりつけ医を待つことが大切。わがプロの資料を見せるなどして広めたい」と心強いお言葉をいただきました。

公式ホームページを開設しました！

「わがプロの過去の講演など詳しいことを知りたい」という読者の皆さま、インターネットで「わが街健康プロジェクト。」と検索いただくと、この春に開設した公式ホームページで詳細を確認することができます。こちらのQRコードを読み込めば、直接ページへつながりますので、ぜひご覧になってください。

第11回講演会は「口から食べる」をテーマに講演

第11回講演会が5月20日、倉敷市民会館であり、倉敷市を中心に202人の市民が参加されました。藤田病院（岡山市東区）副院長渡邉剛正先生は、胃ろう造設を中心に講演されました。胃ろうは栄養摂取の手段のひとつであること、①治療 ②摂食訓練・リハビリテーション ③栄養補助療法の実施が大切で、後戻り可能のため、栄養状況が悪化する前に造設して①～③に取り組むことが大切などと話されました。早瀬歯科医院（倉敷市幸町）副院長 早瀬智子先生は口から食べることのメリットや口腔ケアの重要性などを中心に話をされ、口腔ケアや入れ歯のメンテナンスを受けたことで食事環境が改善し、体重が5kg増となった事例の紹介では会場から感嘆の声があがりました。

血糖値測定や各種相談コーナーを設けた「健やかブース」も講演会当日の13時から50分間開催しています。当院や共催病院、公民館などに配置しているチラシが申し込み用紙となっております。問い合わせはわがプロ事務局（倉敷中央病院地域医療連携室：TEL 086-422-5218）までご連絡ください。

第13回講演会は11月29日（火）の開催を予定しています。詳細は次回10月に発行するKNEWS29号でお伝えします。

わが街健康プロジェクト。

次回第12回講演会は
2016年8月30日（火）14:00～
倉敷市民会館　大会議室2F

参加無料

講演①「精神を病むことと生きること」
～「病いの経験」の理解への手がかり～
あずま会倉敷病院　看護部長　有本 妥美 先生

講演②「地域移行支援について」
～精神科病院から地域へ～
真備地域生活支援センター　赤澤　慶 先生
NPO法人 つどいの杜まりも　小柴 雅史 先生
あずま会倉敷病院　地域医療連携室　平岡 憲一 先生

わがプロカウンター

参加延べ人数	2,082人
ブロンズサポーター（講演会3回参加）	185人
ゴールドサポーター（講演会6回+ミーティング2回参加）	67人

「がん」の相談窓口をご存知ですか？

当院では、患者さんやご家族、あるいは地域の方からがんに関する相談をお受けする窓口として、がん相談支援センターを設けています。当院の他にも県内のがん診療連携拠点病院などに窓口があり、受診の有無に関わらずどなたでもご相談いただけます。

具体的な相談例

- がんの治療に関して一般的な情報が知りたい
- 仕事と治療の両立ができるか心配
- 高額な医療費がかかるため治療を続けられるか不安
- がんと告知を受けたがどうしたらよいかわからない

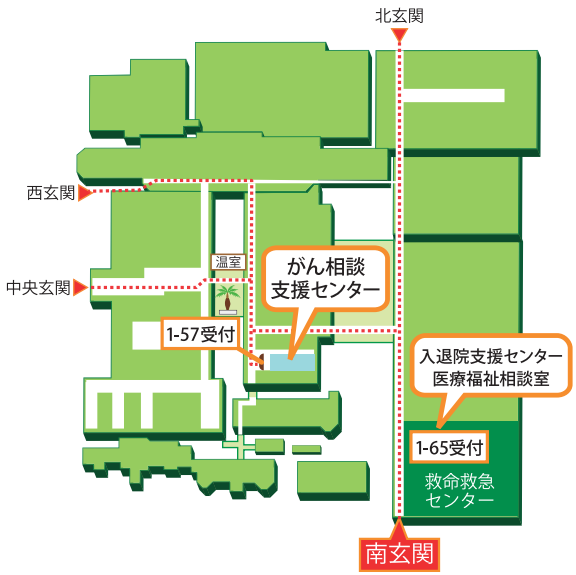
など

つらい気持ちを吐き出したいとき、漠然とした不安や悩みがあるとき…そんなときも、がん相談支援センターをお訪ねください。がん専門相談員（がん看護専門看護師、医療ソーシャルワーカー）が、患者さんやご家族の不安や悩みをお聴きし、その気持ちに寄り添い、解決の方法を一緒に考えていきます。

倉敷中央病院 がん相談支援センター

相談場所	1-57（入院外来相談室）あるいは 1-65（入退院支援センター）
受付時間	平日　9：00～17：00 土曜　9：00～13：00
費　　用	無料
直通電話	086-422-5063 《兼 医療福祉相談室直通》
相談方法	来室あるいは電話相談

※事前予約をお願いしていますが、緊急の場合はこの限りではありません。
土曜日は1-65へお越しください。



医療被ばく低減への取り組み

当院は公益社団法人　日本診療放射線技師会が認定する「医療被ばく低減施設」の認定を受けました。

６月末時点で、当院を含めて県内計２施設、全国では計64施設が認定を受けています。

適正な線量で放射線検査が実施できているか、患者さんへの対応が適切かなどを第三者機関に評価いただくことなどを目的に受審しました。

この認定は医療被ばく低減のための体制が整備されていることが必要で、

■研修や教育訓練等病院職員に対する啓発や、診療放射線技師による検査・治療による被ばく線量などの患者説明等が適切に行われている

■患者の被ばく線量を把握・管理して医療被ばく低減に関する取り組み、また放射線関連装置の保守管理等が適切に行われている

などの項目について、書面審査や７人の審査官による訪問審査を受け、認定となりました。

認定証

倉敷中央病院 殿

医療被ばく低減施設認定制度の審査基準により医療被ばく低減施設に認定致します

認定番号　第六〇号

平成二十八年　二月一日

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長　中澤　靖夫

日本診療放射線技師会の調査によると、CTで患者さんが被ばくするX線の量は、同じ部位の検査でも医療施設によって10倍以上の差があるとされています。患者さんが必要以上に被ばくしている可能性があり、「医療被ばく研究情報ネットワーク」が、望ましい線量の目安となる参考値案をまとめています。

当院では放射線技師が一般的な線量（参考値案）を越えないような検査手順に変更し、画質のチェックも併せて行っています。また、検査目的に応じて線量を抑えた低線量CT検査オーダーも導入しています。特に小児の撮影条件は年齢によって区分を細かくし、見直しました。

今後も、放射線の安全性に関する院内講習会も定期的に実施し、院内全体で知識が共有できるような取り組みも行っていきます。

QQ車

QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごとを運ぶ（お伝えする）コーナーです。

院内学級に学習用タブレット端末が寄贈されました

倉敷市を盛り上げようと、商工会議所を中心に活動している「チームK6」が６月17日、チャリティープロジェクトの一環として、市内の院内学級に学習用のタブレット端末を寄贈されました。

チームK6は倉敷商店街振興連盟と市内の大型商業施設５店（アリオ倉敷、イオンモール倉敷、倉敷天満屋、さんすて倉敷、三井アウトレットパーク倉敷）で構成しています。５月21日から29日の間、「倉敷に咲かそう　オレンジフラワー」をテーマに、喜びや幸福、元気を感じさせるオレンジフラワーをシンボルとし、倉敷の院内学級支援を目的としたチャリティープロジェクトが各所で開催されました。お寄せいただいた募金をタブレット端末の購入費に宛てていただき、このたび寄贈いただきました。

当院の院内学級で行われた贈呈式では、チームK6の代表者の方々が当院院内学級の先生らにタブレット端末を手渡しました。院内学級を代表し、倉敷東小の中村美華教諭が「学習アプリを入れて、一生懸命勉強する子どもたちのために有効活用します」と御礼を述べられました。

市内では当院のほか、川崎医科大学附属病院にも院内学級が設置されています。

思い切り笑ってみませんか？「くらちゅう寄席」が好評です

６月４日、恒例の「くらちゅう寄席」が開催されました。

2013年から始まったこの寄席は、今年で４回目を迎え、すっかり当院の恒例行事になりました。本格的な高座がセットされた会場のセントラルパーラーには入院患者さんや付添いのご家族などたくさんの方が来場され、「持参金」「星野屋」等の古典落語の名作４題、約90分間のお笑いのひとときを心ゆくまで楽しんでいただきました。会場には笑顔と笑い声がいっぱいです。

落語を演じたのは、関西大学落研OBが結成する「グループいっせき」の皆さんで、上方落語界の重鎮・六代目桂文枝師匠（旧名・桂三枝）の後輩たちです。

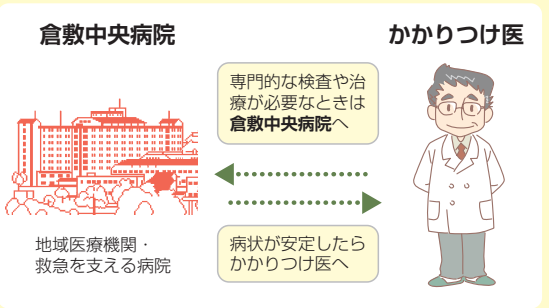
関大落研は50年近い伝統と高い技量を誇る、まさに玄人はだしの面々で、主に関西圏域の介護、福祉施設等をボランティアで訪問され、土日曜は半年先まで予約がいっぱいという超人気ぶりと伺っています。

病院と落語、何となく違和感のある催し物のようですが、逆に病院という施設だからこそ必要な心のオアシスということで、来場された患者さんたちからは「沈みがちな気持ちの中で、久しぶりに心から笑いました。元気をいただいた気がします」「思いがけず病院で本格的な上方落語が聞けて、ホッコリした気分になりました」「楽しかった」等、たくさんの感謝の言葉をいただきました。

ご好評に応え、当院では今後も寄席を続けていきたいと考えています。

倉敷中央病院の役割は？

当院は地域の診療所や病院から紹介のあった緊急・重症な患者さん、救急搬送された患者さんを中心に、入院や手術など高度で専門的な医療を24時間体制で提供する急性期病院です。症状が安定されましたら、お近くの医院をご紹介させていただきます。紹介元の先生よりご依頼があれば、いつでもフォローいたします。



かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を持つことは患者さんにとって大きな利点があります。かかりつけ医は当院の医師と違う視点で病気を管理することができ、十分な時間を取っての相談も可能です。入院や手術など高度で専門的な医療が必要と判断された場合、紹介状を作成されますので当院を受診してください。当院での検査や治療が終了しましたら、当院主治医からかかりつけ医に治療結果を報告しますので、かかりつけ医で継続した治療を受けていただきます。

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院
〒710-8602　岡山県倉敷市美和1丁目1番1号
TEL.(086)422-0210㈹　FAX.(086)421-3424
http://www.kchnet.or.jp